城南ものがたり

開校130年の歩み①

1893（明治 26）年
～1903（明治 36）年

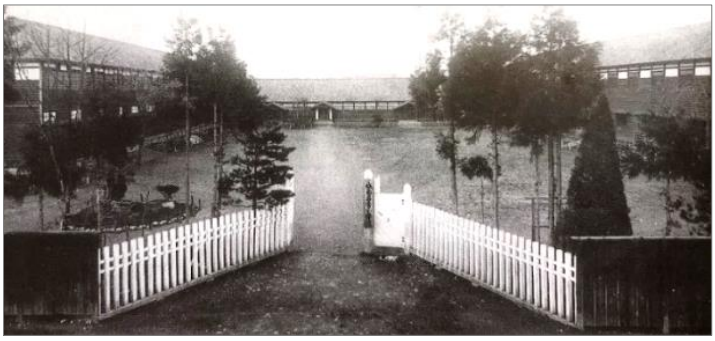
過去の記念誌や残されている資料を手掛かりに、130年の本校の歩みを紐解きます。第1回は開校当時の様子です。

1893（明治26）年に城南尋常小学校が創設され、9月24日に開校式が行われました。当時盛岡市は、中津川で地域を南北に分け、河北地区は仁王尋常小学校に収容し、河南地区は、第二、第三尋常小学校を統合した新設校を作ることを計画し、盛岡城跡の対岸の川原小路を買収して校地に定めました（現在の杜稜小学校の場所）。校名は盛岡城の南にあたる場所なので「城南」と名付けられ、中津川沿いの面積9151㎡（2769坪）の校地に、校舎が城に向かってコの字に建てられました。当時は男女別学が原則で、男子部が12教室、女子部が9教室あり、児童数は男児782人、女児442人、計1224人でした。尋常小学校は4年制で授業料もあり、義務教育でしたが全ての子どもが入学・卒業するとは限りませんでした。期末試験の成績が不良だと落第もありました。

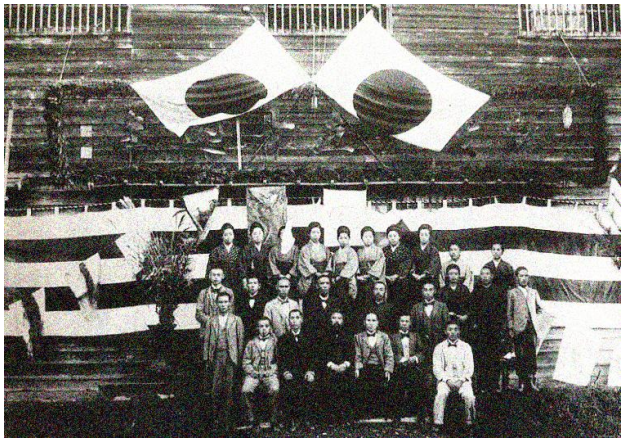
西洋の列強に対抗して近代化や国力を高める改革が押し進められていたこの頃、1890年に教育勅語が発表され、1894年には条約改正や日清戦争がありました。時代の波の中で城南小は誕生し、その歩みが始まったのです。1895年5月には、盛岡の日清戦役「凱旋祝賀会」が八幡宮境内で催され、全校児童が参列し、紅白餅と黄粉が配られたという記録が残っています。

城南小学校の沿革

明治26年	盛岡第二、第三尋常小学校を統合し、城南尋常小学校として川原小路に開校
明治43年	中津川水害のため校舎一部流出
大 正 2年	現在地に校舎新築、移転
大 正 3年	校章・校訓「至誠」「清明」「堅忍」制定
昭 和 2年	日米親善人形「シャタカ嬢」が贈られる。
昭 和 6年	県内小学校初のプール竣工
昭和16年	城南国民学校と改称
昭和18年	創立50周年
昭和19年	校地拡張のために南側隣接地買収
昭和21年	新校歌制定
昭和22年	城南小学校と改称、給食開始
昭和24年	教育奨励会を PTA と改称、会報発行
昭和28年	創立60周年、児童図書館、城南会館落成
昭和32年	全校児童が最多の2,526人となる。
昭和33年	山王小学校創設、296名の児童が移籍
昭和39年	図書館に「吉田文庫」開設
昭和46年	国語科第1回学校公開研究会
昭和48年	体育館落成
昭和53年	プール全面改修、西校舎6教室増築
昭和57年	全国国語教育研究者集会岩手大会会場校 研究実践図書「確かな読みを育てる国語指導」発刊
昭和61年	研究実践図書「個を生かす国語の指導」発刊
平 成 3年	NHK 学校音楽コンクール県大会3年連続最優秀校 全日本吹奏楽コンクール県大会金賞受賞
平 成 5年	創立百周年記念式典並びに祝賀会挙行
平 成 8年	新校舎落成、校訓「至誠」記念碑除幕
平成18年	ふれあいパトロール隊発足
平成23年	博報賞（国語教育部門）受賞
令 和 2年	新型コロナウイルス感染症で一斉休校
令 和 4年	体育館全面改修 文部科学大臣優秀教員表彰を受賞



開校した明治 26 年から大正 2 年まで使われた初代校舎



創立 10 周年記念当日の職員写真【明治 36 年 9 月 24 日】

明治 30 年頃の盛岡市中央部略図

開校130年の歩み②

1904（明治 37）年
～1913（大正 2）年

洪水被害を受けた直後の校舎、手前が中津川（明治 43 年）

落成式で飾り付けされた新校舎（大正 2 年）

1906（明治39）年、尋常科（4年制）の上に高等科（2年制）を併置して城南尋常高等小学校と改称されました。5月に初めての同窓会が開かれましたが、来会者は800名に及び、校旗が寄贈されました（＊校旗は伝わっていません）。1907（明治40）年、校訓「至誠」が定められました。翌年、義務教育が6年に延長され、現在に続いています。

1910（明治43）年9月3日、大事件が起きました。豪雨による中津川の大洪水が街を襲い、校舎の一部が流失してしまったのです。中津川に架かる全ての橋が流出し、被害地域の大半が城南の学区でした。約半月後に授業が再開されましたが、教室が不足し、旧市役所庁舎を間借りしたり、2部授業を行ったりして凌ぎました。

1912（明治45・大正元）年5月、盛岡市会で校舎移転改築案が可決され、当時は田や畑だった現在地（若園町）で建設工事が始まりました。これに併せて、上ノ橋から天神山直下までの天神新道と、現在のバスセンター付近から天神新道を直角に結ぶ道路が整備されました。翌年9月に新校舎が完成し、11月に落成式が挙行されました。創立20周年の年でした。この2代目校舎は、平成8年まで83年間使用されました。当時の6年生が文集に次のように記しています。「あまりの大きさに驚いた。控所は広い。廊下は長い。教室は数知れず沢山ある。運動場は広い。周囲は景色がよい、何から何まで気持ちがよい。ああよい学校である。これほど心地よいゆるやかな学校とは思わなかった。」 新校舎完成の喜びと期待とがひしひしと伝わってきます。もし洪水被害がなかったなら、本校は異なる歴史を歩んでいたかもしれません。

開校130年の歩み③

1914（大正 3）年
～1923（大正 12）年

新校舎が落成した翌年の1914（大正3）年4月、校章が制定されました。梅の花に盾形の「南」が入っていますが、盾は身を守る「固い城」を表し、「南」と合わせて「城南」となります。梅の花は天満宮にまつられた菅原道真公にちなんで誠の心と清らかな心を表しており、本校の精神は「至誠」「清明」「堅忍」の3つを根本としています。5月には旧校歌が制定され、現在の校歌が出来た昭和21年まで歌い継がれました。この年には校地整備も完了し、現在も残る古い樹木の多くはこの時に植樹されたものです。移転新設された大正時代の初期に城南小学校が形作られたと言えます。

運動会での遊戯「御旗」（大正 4 年）

卒業生寄贈の校旗贈呈式（大正 10 年）

1915（大正3）年10月、観武ヶ原に陸軍の飛行機4機が初めて着陸し、飛び立つ様子を4年生以上の児童が見学に行きました。「空を飛ぶものは鳥ばかりと思っていたが、今は飛行機が発明されて数百尺数千尺の高空を自由自在に翔けるようになった。陸軍大飛行を見ては飛行家にならないでいられない」と6年生が作文に残しています。この頃は遠足もよく行われ、80周年記念誌には年4回程度だったと記述されています。6年生は朝5時に出発して繋温泉まで歩き、夕方6時に帰校したとのことですが、片道約16kmを往復したとは驚きです。有志による岩手山や姫神山登山もありました。1920（大正9）年8月には、海浜学校が宮城県渡波町（現石巻市）で初めて行われ、児童28名、教員5名が参加しました。1921（大正10）年11月、原敬首相の葬儀があり、2年生以上の児童が県庁前で葬列をお見送りし、1週間後、全校で大慈寺の墓前に参拝しました。歴史的な出来事でした。

開校130年の歩み④

1924（大正 13）年
～1933（昭和 8）年

大切に伝えられてきたシャタカ嬢

1927（昭和2）年、アメリカ合衆国から日本に両国間の親善を目的として約1万3千体の青い目の人形が贈られましたが、本校にも4月にシャタカ嬢という名前の人形が届き、歓迎会が行われました。太平洋戦争の際に、敵国の人形との理由でその多くが失われてしまい、シャタカ嬢の行方も不明になっていましたが、1971（昭和46）年に正面玄関上の倉庫から発見され、再び大切に飾られました。今も職員室前のガラスケースの中から学校を見守っています。

喜びのプール開き（昭和 6 年 7 月）

同年の昭和2年6月には、教育奨励会（PTA のような会）の寄付で西講堂の近くに浴場が作られ、「城の湯」と名付けられました。児童の体の清潔のために入浴させましたが、好評だったようです。

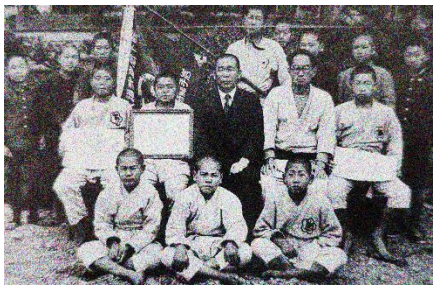
昭和に入ると、映画を見ることが多くなり（無声映画全盛期）、授業に替えて常設館や公会堂に頻繁に出かけました。近隣に相次いで小学校が創設され、1929（昭和4）年に開校した山岸尋常小学校に230名、1930（昭和5）年に開校した杜陵尋常小学校に65名、大慈寺尋常小学校に76名が学区の変更により移りました。

1931（昭和6）年、校地東側に県内小学校初のプールが開設されました。第22回卒業生の小田東氏が体育奨励の趣旨から寄付したもので、約25m×15m、水深1.6～1mありました。開場式には市長も臨席し、記念の水泳競技会が盛大に行われました。当時の記念碑が今もプール脇に建っています。同年9月、満州事変が起きました。学校日誌には児童が出征兵士を盛岡駅で歓送した、兵士の葬儀参列や見送りをしたという記述が度々出てきます。日本の国際的孤立や軍部の発言力の高まりなどの影響を受け、世の中は不安定な状況にありました。

開校130年の歩み⑤

1934（昭和 9）年
～1945（昭和 20）年

1936（昭和11）年6月、米内光政海軍中将（＊）が来校され、全校児童に「先生ノ言ヒツケヲ守ッテ、ミンナ偉クナリナサイ」と訓示されました。7月には盛岡市の上水道の整備により、水飲所、東西両便所の手洗所、用務員室、校庭の足洗場に水道栓が設置され、用水が便利になりました。11月には衛生上の功績が認められ、学校衛生施設優良校として全国表彰を受けました。子どもたちは少年野球、水泳、陸上競技、武道（柔道、剣道）、相撲の各大会で目覚ましい活躍を見せ、優勝が何度も報告されました。



県下学童武道大会優勝（昭和 15 年）

1941（昭和16）年、国民学校令の公布により校名が城南国民学校と改称されました。12月に日本がアメリカやイギリスに宣戦布告し、太平洋戦争が始まりました。空襲が起きた想定で避難や消火の防空訓練も度々行われました。戦争が長引くにつれて徐々に商店の品物が少なくなり、ゴム長靴やズック等も学校に配給され、抽選で分けられました。

学芸会（昭和 17 年）

1944（昭和19）年、校庭拡張のため、南側隣接地水田と宅地約1226坪を買収し、これにより現在の校地とほぼ同じ形と広さになりました。拡張された部分は第二校庭と呼ばれ、この水田で米作りが行われました。この頃は国内物資と共に食料も不足し、山菜採集、イナゴ捕り、学校園の芋掘り、校庭を開墾しての畑作り等、食料増産に関する出来事の記録が頻繁に見られます。除草、開墾、農耕、縄ない、薪運搬等の勤労作業もよく行われました。翌年、疎開が始まり、東京の国民学校から70名の児童を受け入れましたが、戦地に出征した担任もいました。戦争によって人々の生活が根本から変えられた時代でした。

＊1940年1月に第37代内閣総理大臣に就任。海軍大臣も2度務めた。本校前身の盛岡第三尋常小学校を1890（明治23）年に卒業している。

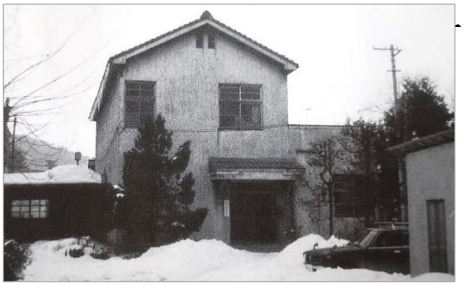
開校130年の歩み⑥

1946（昭和 21）年
～1953（昭和 28）年

1945（昭和20）年の終戦後、1952（昭和27）年の平和条約成立による独立に至るまで、連合国軍占領下の教育改革によって学校は大きな変貌を遂げました。民主化の理念の下、日本国憲法に教育に関する条文が掲げられ、教育基本法に目標や教育実践の基本となる思想が示され、学校教育法、社会教育法、教育委員会法などの立法による諸規定を基に戦後の教育制度が構築されていったのです。教科書も一新され、戦前の考え方や内容とは大きく変わりました。戦後暫くの間は食料も十分ではなく、山菜採集のための休業もありました。

松島への修学旅行【昭和 28 年】

1946（昭和21）年、現在も歌い継がれる校歌が新たに誕生しました。学校体系が六・三・三・四制に改められ、1947（昭和22）年4月、校名が城南国民学校から盛岡市立城南小学校と改称されました。市内の新制中学校の創設もこの時で、城南中学校が併置されましたが、翌年下小路中学校分教室となり、1949（昭和24）年、新校舎完成に伴い廃止となりました。この年、教育奨励会を父母と教師の会（PTA）と改組し、会報「城南」が創刊されました。創刊号には家庭教育や社会教育の重要性が説かれ、「会報が民主教育理解の資料となれば幸甚です」と記されています。この年には計5回、6～8ページで発行されましたが、当時の保護者の意気込みや志の高さが伝わってきます。



教育環境整備を願って建設された城南会館

1951（昭和26）年、給食調理場が完成し、完全給食が始まりましたが、当初は保護者が当番制で調理や洗い物を手伝っていました。

1953（昭和28）年、創立60周年記念式典協賛会が推進母体となり、記念事業として校庭西南隅に児童用図書館、視聴覚教育用ホール兼学区民集会所を備えた二階建ての城南会館が建設されました。

開校130年の歩み⑦

1954（昭和 29）年
～1963（昭和 38）年

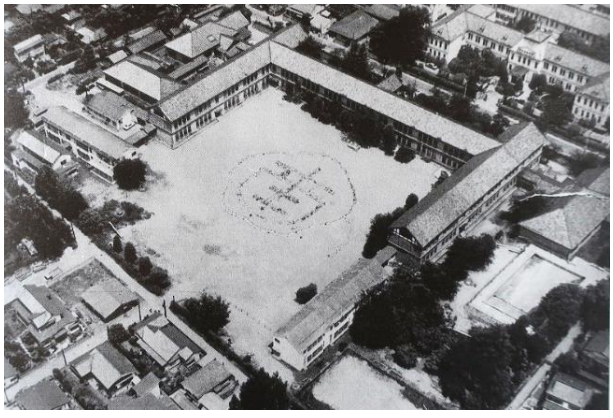
1947（昭和22）年から1949年に第1次ベビーブームが起こり、この間の出生数は毎年250万人を超え（＊令和4年の出生数はこの3分の1弱で過去最少の79万9728人）、児童数が増大しました。

1950（昭和25）年に本校の児童数は2千人を超え、最も多かったのは1957（昭和32）年の2,526人でした。教室が不足したため、1951（昭和26）年に西新校舎棟6教室が増築されました。1954（昭和29）年から1956（昭和31）年にかけては、東新校舎が毎年2教室ずつ、計6教室が校庭南側の南芳園脇に増築されました。

圧巻だった運動会の全校玉入れ【昭和 31 年】

山王小学校の開校により、1958（昭和33）年4月に296名が、翌年には155名が移籍し、西講堂や廊下までを教室等に使った児童数の激増期は終了を迎えました。1959（昭和34年）、樹木の除去を伴う大規模な校庭整地作業が行われました。この年には放送室、放送器具室、視聴覚室が完成し、全校朝会等も放送で行うようになりました。

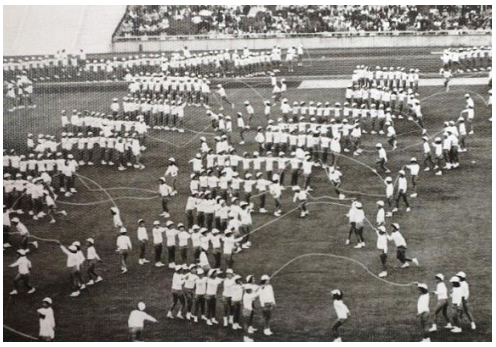
1961（昭和36年）、西校舎の西側にボイラー、消毒格納庫、三重釜、ミルク沸かし機、食器洗浄機、水タンク等が完備された給食調理室が新築完成し、モデル施設として文部省や日本薬剤師協会等からの視察もありました。南芳園南側にテニスコートが作られ、本校舎2階に児童用図書館が完成し、城南会館から移転しました。1963（昭和38年）、創立70周年記念事業としてプール改装工事を実施し、竪型ピアノを購入しました。この10年間は児童数がピークに達した時期でしたが、校舎や校地内の設備が整っていった時期でもありました。



創立 70 周年時の堂々たる木造校舎【昭和 38 年】

開校130年の歩み⑧

1964（昭和 39）年
～1973（昭和 48）年



国体開会式の集団演技（4年生）【昭和 45 年】

駒ヶ岳登山【昭和 47 年】
岩手山や姫神山登山を行った年もあった。

1964（昭和39）年、吉田良治氏（第43回卒業生）からの本の寄贈が始まりました。「吉田文庫」は平成7年までに1855冊を数え、図書の充実に大きく寄与しました。また、文部省主催道徳教育講習会と学校公開研究会が3日間の日程で開催されました。道徳研究は国語研究に切り替わった1970年頃まで続き、その成果は研究紀要や資料集「城南のこども」等にまとめられ、全国的にも知られるようになりました。

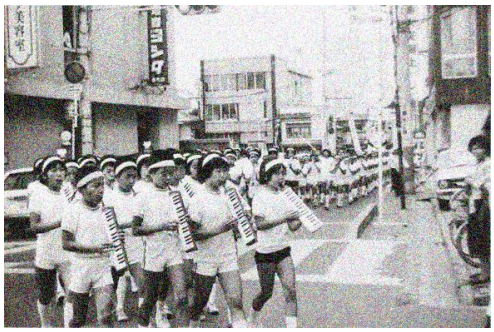
1970年（昭和45）年、国民体育大会岩手大会が県営運動公園競技場を中心として県内各地で開催されましたが、本校校庭が陸上競技練習会場となりました。開会式で披露された4年生の集団演技「わらしっこ」と6年生の鼓笛演奏「みちのくの空にひびけ」が成功を収めました。

1971（昭和46）年、全校児童を縦割り5学団（黄、緑、だいだい、青、赤色）に編成し、学年や学級の枠を外して清掃や運動会などの活動に取り組むようになりました。石油ストーブが初めて取り付けられ（4台）、次第に薪ストーブは姿を消していきました。この頃、警備員による巡回が開始され、宿直が無くなりました。

1972（昭和47）年、国語科第1回学校公開研究会が開かれましたが、同年、国語教育研究の業績が全国的に評価され、博報賞国語教育部門団体賞を受賞しました。以来、国語研究は本校の代名詞となって引き継がれ、今年の秋には41回目の公開研究会を迎えます。この年の12月、解体された特別教室と西講堂棟跡に建設中だった体育館が完成しました。翌年、開校80周年記念式典並びに体育館落成式が盛大に行われ、出席者は600人を数えました。

開校130年の歩み⑨

1974（昭和 49）年
～1983（昭和 58）年

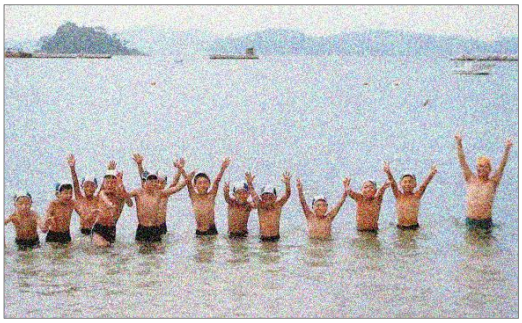


鼓笛パレード【昭和 53 年】

1974（昭和49）年、校内の便所が水洗化され、低学年も安心して使用できるようになりました。翌年8月、原因不明の出火により、西校舎と城南会館が火災に遭いました。焼失した校舎は取り壊され、後の1978（昭和53）年3月、跡地に鉄筋の新西校舎6教室が竣工しました。

1977（昭和52）年4月、校舎内外（教室内部、廊下を含む）の塗装工事と、木製の上下窓からサッシ窓への改修工事が行われました。

1978（昭和53）年7月、昭和6年から47年間使用したプールが全面改修されました。このプールは現在も使用していますが、この時に南芳園の整備も行われました。これらの事業の記念碑がプール脇に建っています。翌年5月、盛岡市植樹百万本運動の一環としてドウダンツツジが400本支給され、校舎正面の道路側に植樹されました。



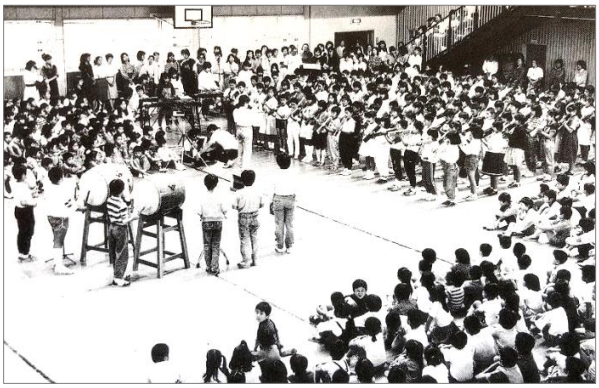
最後の海浜学校（山田町）【昭和 55 年】

1981（昭和56）年、大正9年から始まり、渡波海岸、気仙沼大島（以上宮城県）、宮古市磯鶏黄金浜海岸、陸前高田市広田町、山田町船越などで開設してきた海浜学校を取りやめ、代わりに区界で5年生がグリーンキャンプ（林間学校）を行いました。これは今も続いています。

1982（昭和57）年10月、全国国語教育研究者集会並びに学校公開研究会を開催しましたが、参加者は2日間で延べ1500名を数えました。また、本校が国語研究を始めてから2冊目の研究実践図書「確かな読みを育てる指導」（明治図書）を発刊しました。この年は、東北新幹線の大宮～盛岡間が開業して東京への日帰りができるようになりましたが、この影響で盛岡の街並みや人の流れも変わっていきました。

開校130年の歩み⑩

1984（昭和59）年
～1993（平成5）年



全校音楽集会【昭和62年】

1984（昭和59）年から音楽科が専門の校長が三代続き、この頃から校内の音楽活動が盛んになりました。1987（昭和62）年、東北地区音楽研究大会の会場となり、全校音楽集会や授業を公開しました。1988（昭和63）年、金管バンドクラブが県民会館で開催された全日本バンドフェスティバルに出演。翌年には合唱クラブがNHK合唱コンクールで最優秀校となって東北大会に進み、以降3年連続出場を果たしました。両クラブは各種コンクールで毎年のように好成績を修め、地域の施設やイベントでも度々演奏して活躍しました。

百周年記念植樹【平成5年】

1991（平成3）年、市内陸上記録会で、5年生は男子400mで大会新記録の第1位となり、第3位までの入賞7種目、6年生は第1～3位までの入賞9種目と、好記録が続出しました。1992（平成4）年、心と体の健やかな児童を育てることを目的とした朝日新聞社主催、文部省、厚生省後援の健康推進学校大規模校の部に優秀校として選ばれました。この年の9月から週5日制に伴う土曜日休校が始まりましたが、同月、盛岡劇場で「プレ開校百年祭『白寿祭』」を開き、フォーラムや講演会、児童による朗読発表が行われました。翌年9月、開校百年を祝う記念式典並びに祝賀会が盛大に挙行され、体育館での式典には児童代表150名と合わせて千名余り、南部会館での祝賀会には750名が出席しました。百年記念誌刊行、映像記録作成（テレビ放送）、校史室整備、記念歌制作、記念文集発行等の記念事業が多くの関係者の協賛を得て進められ、大きな節目を刻みました。

開校130年の歩み⑪

1994（平成6）年
～2003（平成15）年

木造校舎お別れ式【平成7年9月】
体育館一杯に全校児童の木造校舎の絵が飾られた。

百周年記念事業の終了を区切りに、校舎改築が一気に動き出します。1994（平成6）年5月、木造校舎を曳家して工事に着手し、翌年の12月、同じ位置に旧校舎の外観を再現した最新の施設設備を有する新校舎が完成しました。城南百周年に結集された関係者の熱意と努力は、校舎改築と翌年の記念碑建立等の事業に継承され、落成記念式典・祝賀会をもって節目を迎えました。この頃、市内の学校の改築が相次ぎ、木造校舎が惜しまれながら消えていきました（昭和61年：大慈寺小、平成2年：山王小、同3年：仙北小他）。「1年生のぼくを優しく迎えてくれた木造校舎。外から見ると大きく、廊下が長くて走れるぐらいだった。手すりは多くの人たちが触ってつやが出て、床は歩くとぎしぎしいった。木造校舎がなくなるので、掃除を一生懸命やろうと思った。あたたかく包んでくれた木造校舎。ぼくはいつまでも忘れない。」（卒業文集より）

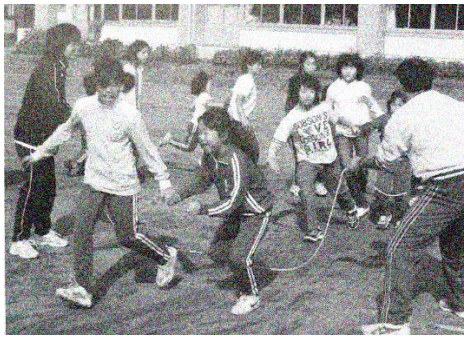
コンピュータ室での学習【平成15年】
デスクトップパソコンを使い、専用の教室に移動して使用した。

1998（平成10）年11月、学校と家庭での歯磨き指導や治癒率向上等への取組が認められ、本校が「よい歯の表彰」全国大会で岩手県代表として表彰されました。2001（平成13）年4月、全校朝読書が始まりました。また、この年のPTA総会で「出番ですよ委員会」と「お話ボランティア（読み聞かせ）」が承認されて動き出しましたが、これらの活動は現在も続いています。

2002（平成14）年4月、完全学校週5日制とともに新教育課程が実施され、新たに「総合的な学習の時間」が加えられました。翌年2月、コンピュータ室にパソコン40台が導入され、パソコンを使用した学習が始まりました。

開校130年の歩み⑫

2004（平成16）年
～2013（平成25）年



ふれあい運動会【平成17年】
児童会主催兄弟姉妹学級対抗スポーツ大会

2004（平成16）年10月、「健康増進法」の趣旨を踏まえ、受動喫煙の防止や児童の健康教育の一層の推進のために、学校敷地内が全面禁煙となりました。翌年10月、2年振りに国語科学校公開研究会を開催しましたが、平成13年の第30回まで毎年開催していた研究会は平成15年から隔年開催に変わり、現在に続いています。

2006（平成18）年7月、子どもたちの登下校の様子を見守る「ふれあいパトロール」発足式が行われ、登録者131名でスタートしましたが、城南教育を推進する会の支えもあって年度末には約200名に達しました。

ありがとうコンサート【平成24年】
盛岡劇場で開催され、寄せられた義援金が宮古市の2つの交流校に届けられた。

合唱クラブと金管バンドクラブは、互いに切磋琢磨しながら毎年のように市内外で活躍していましたが、2009（平成21）年、NHK 学校音楽コンクール東北大会で合唱部が3位相当の銅賞に輝きました。2011（平成23）年3月には、練習の成果を披露して日頃の感謝の気持ちを伝えようと「ありがとうコンサート」を初めて開催し、好評を博しました。その5日後に、東日本大震災が発生。県内は沿岸部を中心に未曾有の甚大な被害を受け、全県を挙げて復興教育の取組が始まりました。本校は宮古小学校、藤原小学校へのメッセージの送付や合同演奏会を通した交流を行い、心を通わせました。

同年11月、国語科教育の実践研究に長年取り組み、成果を発信し続けていることが全国的に評価され、第42回博報賞（国語・日本語教育部門、昭和47年以来2度目）を受賞しました。

開校130年の歩み⑬

2014（平成26）年
～2023（令和5）年

朝の昇降口の様子【平成4年】
手指消毒、マスク着用の生活が約3年数か月続いた。

タブレットを活用した授業【令和5年】
教室での学習活動が大きく様変わりした。写真は4年生の教室。

2016（平成28）年2月、図書室にバーコードシステムが導入され、運用が始まりました。本の貸し出し手続きや蔵書管理、児童の読書傾向の把握も容易になりました。2019（令和元）年、市内の全小中学校の教室にエアコンが設置され、猛暑の日でも暑さを凌いで学習ができるようになりました。

2020（令和2）年2月末、新型コロナウイルス感染症の全国的な流行を受けた政府の一斉臨時休業要請により、3月4日から春休みまで休校となりました。以後、常に感染対策を念頭に置きながら、様々な制限を受けた中で何が出来るか試行錯誤しつつ、教育活動や学校行事を進めました。

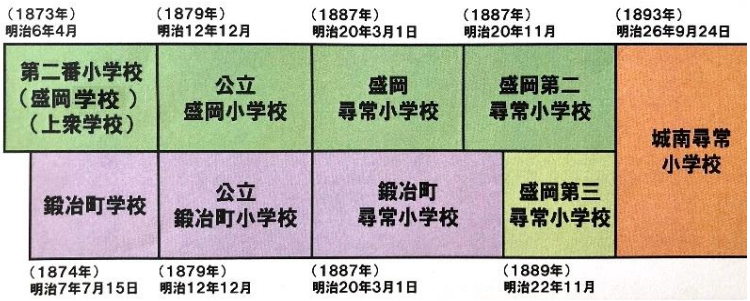
2021（令和3）年7月、築50年が経過して老朽化が進んだ体育館の改築工事が始まりました。文科省の GIGA スクール構想の下で各学校に一人一台端末（タブレットパソコン）が整備され、教室の自席で使ったり、教室から持ち出して学習したりできるようになり、調べる、表現する、交流する、記録する、保存する、問題を解く等、活動の幅が大きく広がりました。

2022（令和4）年1月、学校・保護者・地域との連携による読書教育推進の取組が評価され、文部科学大臣優秀教員表彰を受賞しました。3月には LED 照明、多機能トイレ、格納式ひな壇、弾力のある床、暖房器具等の設備を備えた新体育館が完成しました。翌年5月、コロナウイルス感染症区分が第5類に移行したことを受けてマスク着用が任意になり、学校行事に多くの人が集まる等、徐々に従来の生活の姿に戻っていきました。

前身の学校 20年の歩み

1873（明治 6）年
～1892（明治 25）年

1893（明治26）年に統合開校した本校の前身には、2つの学校がありました。1872（明治5）年、近代的学校制度が定められた「学制」が公布され、盛岡には日影門外小路（当時、米内村）と上衆小路（当時、東中野村）の2か所に小学校の設置が認められ、1873（明治6）年4月、第一番小学校（仁王学校）と第二番小学校*1（盛岡学校、上衆学校。後の盛岡第二尋常小学校）が開校しました。後者が本校の前身の一つです。翌年7月、もう一つの前身、鍛冶町学校*2（後の盛岡第三尋常小学校）が村井茂兵衛他7氏の発起により県の許可を得て設立されました。1884（明治17）年、河南地区で発生した大火によって盛岡小学校が焼失し、翌年、新穀町の仮校舎に移転しました。1886（明治19）年、小学校令が公布され、従来の初等・中等・高等の3科を廃止して尋常・高等の両科に編成替し、翌年、盛岡尋常小学校、鍛冶町尋常小学校と校名が変わりました。



前身の2つの学校の校名の変遷

盛岡学校の卒業証書（明治 9 年）

この20年間は、就学児童数の増大に伴う分教室の設置や校舎の移転が度々ありました。また、「学制」、「教育令」（明治12年）、「小学校令」を受けてその度に校名が改称され、教育制度が目まぐるしく変わり、学校運営は困難を余儀なくされましたが、就学率*3は徐々に向上し、義務教育の形態が少しずつ整えられていきました。城南小学校の130年の歩みと共に前身の学校の歴史にも目を向け、盛岡の学校で最も古い150年の伝統を、後世に大事に伝えていかなければなりません。

*1 第七大学区第十八中学区第二番小学校。東中野村上衆小路1番地の旧氏族邸に設けられた。高橋伊兵衛伝（藤井茂著）によれば、現清水町にあるパチンコ TOMATO の場所にあったとされる。

*2 第七大学区第十八中学区鍛冶町学校。鍛冶町東側7・8・9番地の商人の屋敷に設けられた。現紺屋町にあるうさぎ屋の建物の壁に「創立の地」と記されたプレートが設置されている。

*3 当時多数の小学校が短時日の間に開設されたが、学校で学ばせることはまだ一般民衆の通念となっておらず、全国の就学率は32.3%（明治7年）、49.6%（明治18年）であった。（文部科学省 HP より）

【参考資料】
・城南小学校沿革誌（明治期～令和4年）
・創立80周年記念誌（昭和48年）
・創立百周年記念誌、この日城南晴れ－百周年記念式典等の記録－（以上、平成5年）
・新校舎落成記念－城南よいつまでも－（平成8年）
・創立110周年記念誌（平成15年）
・創立120周年記念誌（平成25年）
・校報「城南小だより」（平成15～令和5年）
・卒業記念帖及び卒業アルバム（明治41年～令和4年） 以上、盛岡市立城南小学校
・岩手近代教育史（昭和56年 岩手県教育委員会）
・岩手の教育物語－昭和史をつづる1000人の証言（平成3年 岩手県教育弘済会） 他

あとがき

「城南ものがたり～開校130年の歩み～」は、昨年10月から校報「城南小だより」に連載した記事をまとめたものです。限られた字数に十年ずつの歩みを盛り込む作業は容易ではなく、主な出来事の羅列になってしまった感は否めません。至らない記述が多々あると存じますので、お気付きの点がありましたらご指摘願います。

この節目の年に、城南小学校の輝かしい歴史や当時の姿に改めて触れることで本校と皆様との絆が一層確かなものになり、子供達の未来に幸せを送る城南教育の推進に今後も一層のご支援をいただけましたら、これほど喜ばしいことはありません。お読みくださいましてありがとうございました。

令和5年9月吉日　校長　菅野　亨